



小出石町のまちなみ（本文中に関連記事があります）

目次／contents

人・まち・地域…………… 2

- ・「小出石紀行」小出石町十二門ぐらし／石本幸良
- ・小舎制による児童養護施設と乳児院の新築工事が始まりました
／間瀬高歩
- ・堺市における公共施設の誘導サインのユニバーサル化への試み
／中塚一・西村幸治

きんきょう…………… 8

- ・尾張名古屋城下町の風景を訪ねて～尾張名所図絵の今昔を巡る①
／尾関利勝
- ・嵯峨野線から消えゆくカボチャ電車～チョットとマニアック
電車の話！？／山崎裕行

メディア・ウォッチ…………… 10

- ・「日本の未来をつくる」－地方分権のグランドデザイン／三輪泰司
- ・「真夏の夜の夢 さんかく山のマジルー」／鮎子田稔理

まちかど…………… 12

- ・世界記録には三つ葉を、肘張鞆管楽器には音楽の神を。／廣部出



ひと・まち・地域

「小出石紀行」

小出石町十二門ぐらし

京都事務所／石本 幸良

京都市左京区の大原の里・小出石町の、「市街化調整区域における地区計画制度」を活用した集落活性化の取組支援について報告します。

小出石町の概要

小出石町は大原の里の北に位置し、大原八郷とは独立した生活文化圏を持っています。愛宕郡誌で明治初年の小出石村人口は148人と記され、平成17年の人口は146人と同じで、長きにわたり、集落の絆を守り続ける山あいの集落です。

集落の維持・発展に向けて

この小出石町において、「少子高齢化による過疎化」への危機感から新しい住民の定住促進に向けた学習会を重ねてきました。京都市は平成20年7月に「市街化調整区域における地区計画制度」の運用基準を施行しました。この条例制定に向けた大原地区での意見交換会等で私がアドバイザーをしていた経緯もあり、最初のモデル地区として京都市の支援を取り付け、地元と京都市の協働による取組を平成20年10月から開始しました。現在、私は「京都市景観・まちづくりセンター」からのコーディネーター派遣制度により地区計画策定のアドバイザーとして支援を行っています。



小出石町の全景

集落ビジョンづくりの取組成果

集落が抱える課題解決の取組を地区全体で進めるため、「小出石町ビジョン検討委員会」を設置し、平成20年度はビジョンづくりを中心に検討を進め、「市街化調整区域における地区計画制度」導入の検討も併せて行うこととしました。

まずは八幡宮の宮司さんの講話や委員のみなさんの「小出石の歴史と自慢話」から小出石の自然・歴史・文化・風習・コミュニティの情報収集を始めました。宮司さんの話の中にあつた、八百年前、建礼門院の発願で、十二軒の氏子により開かれた八幡宮の由来からヒントを得て、「小出石町十二門ぐらし」と銘打った小出石の集落ビジョンを作成しました。十二項目構成で、小出石の歴史、文化、自然資源、風情、風習、絆を謳い、十二番目で「新しい人と新しい活動を迎え、新しい小出石の門を開きます」と結びました。

委員会の取組についてはまちづくりニュースを全戸配布して、理解と協力を深めています。

まちづくり憲章（ビジョン）づくり

今回策定した「小出石町十二門ぐらし」は秀作と自負しています。委員の方からも十二門の話からこのビジョンが策定されたことには驚きを持って受け入れて頂きました。これは、「姉小路界限町式目（平成版：平成12年4月）」、「三条小橋商店街町定（平成17年2月）」、「納屋町伏見のおだいご宣言（平成19年4月）」に続く、私がお手伝いした4つ目の作品です。姉小路界限では建築協定締結に、納屋町では地区計画策定につながりました。まちづくりの多様な取組において、関係者の価値観や生活観の違いから方向性を一つにまとめることは容易ではありません。その際に、関係者が町を語り合える「まちづくりビジョン」を共有することは非常に有効で、方向性が揺らいだ時も、戻ることのできる拠り所である「ビジョン」を持つことは非常に効果的です。

まちづくりプランナーとしての未熟さ

しかし、ビジョンには共感して頂いても、「これどどのようにまちが変わるのか」、「早く区域を決めて家を建てられるようにしてほしい」との結果を求める意見を突きつけられます。原則的なまちづくりの取組の流れは地元の方からすれば、まどろっこしく見えるようです。この反応は他の3地区も同様です。まちづくりプランナーとしての未熟さが原因ではありますが、私はこの取組だけは必ず実現するように努め、理解を求めています。

それでも地区によってはこれまで蓄積してきた地域の方への丁寧な情報提供のないままに、外部の情報を元に取組を先行される事例もあり、おつきあい薄れていく地区もあります。

最近ではまちづくりの現場で、「ここちよいまちづくり」や「たたずまいのよさ」と称してまちを語るように努めています。私の30年余りのまちとの関わりあいから獲得できた私のまちづくりの表現です。その「ここちよいまちづくり」を地域の人たちと一緒に体感するため、夜間や週末を利用して、まちに通い続け、一緒に汗を流しながら丁寧に情報交流を進めることを念頭に活動しています。

小出石地区では地区計画の区域や内容について行きつ戻りつ連続ですが、平成21年度中の地区計画素案策定を目標に、「小出石町地区計画検討委員会」と名称を変更して取組を進めています。

「小出石町十二門ぐらし」

小出石の町は豊かな自然環境に包まれ、古代から京と若狭をつなぐ街道筋に位置する山あいの集落として歴史を刻んできました。

小出石の町はお宮さんとお寺さんを中心に、千年の長きにわたり、その集落の住まい、営み、静けさを、環境と共生する程よい程度に守り続けています。

この小出石の町において、町の良さを守りつつ、新しい息吹を吹き込み、新しい小出石のまちづくりを進めます。

この小出石のまちづくりを語り続けるため、「小出石町新風土記」として、八幡宮に関わる「十二門」の由来を活かし、「小出石町十二門ぐらし」としてまとめ、発信します。

一、豊かな山々の木々の緑、高野川の源流の清流、町は豊かな自然に包まれています。

二、集落回りの田畑と背景の自然が一体となって、四季折々の風情が堪能できます。

三、古代から京と若狭をつなぐ街道の中継地として行き交う旅人のやすらぎの場を提供してきました。

四、七百年前に十二家の氏神として開かれた八幡宮、今も十二門の名称を引き継いでいます。

五、小出石町は山あいの集落として、独自の自治と文化を育み、今に伝えています。

六、中世から神社と寺をまちのシンボルに、ほどよい町の大きさを守り伝えています。

七、毎月、八幡宮さんの神事を町の人の協力で、今も守り続けています。

八、お伊勢講・愛宕講が今も生き続け、昔からの風習を大切に継承しています。

九、町には互助の精神が満ち溢れ、町の人のつながりを大切にしています。

十、町のことにはみんな協力して町じゅう総出で取組んでいます。

十一、多世代のひとが互いの立場を守りつつ、話のはずむ関係を大切にしています。

十二、古き伝統と文化をみんなで育む小出石の町に、新しい人と新しい活動を迎え、新しい小出石の一門を追加します。

平成二十年

小出石町ビジョン検討委員会



小舎制による児童養護施設と
乳児院の新築工事が始まりました
名古屋事務所／間瀬 高歩

歴史の長い名古屋の児童養護施設を全面建て替え

今年の春、3月28日に名古屋市緑区にある民間児童養護施設の地鎮祭が執り行われ、児童養護施設と乳児院の新築工事が始まりました。

児童養護施設「社会福祉法人中央有鄰学院」（名古屋市緑区）（以下・同法人）は、今から約110年前の明治33年に愛知県豊橋市に児童保護を主体とする慈善救済の社会事業として、豊橋育児院と称し設立された歴史の長い施設です。その後、昭和23年に児童福祉法の施行により児童養護施設となり、昭和37年には現在の敷地である名古屋市緑区に施設が移転され、現在は児童定員を63人として、植田望理事長、二村繁美施設長が施設を運営管理されています。

既存施設は昭和37年から使用されており、家庭の事情で家族と暮らせない2歳～18歳の子ども1,000人以上がこの施設から巣立っていったとお聞きます。現在も同法人では約50人の子どもたちが生活していますが、以前より既存施設の老朽化や耐震上の問題などから建て替えが望まれていました。長年に渡り、同法人が建て替えの働きかけに取り組んでこられた結果、この度、国と名古屋市の補助事業として、施設の全面建て替えが実施されることとなりました。

施設の全面建て替えの事業化は、子どもたちのために既存施設の壁画制作や様々なボランティア活

動を取り組んでおられる名古屋市立大学の川井一義教授から始まり、施設の全面建て替えを構想された明星大学の奥山健二教授のご紹介により、アルパック名古屋事務所が建築設計・工事監理を担当させて頂くこととなりました。

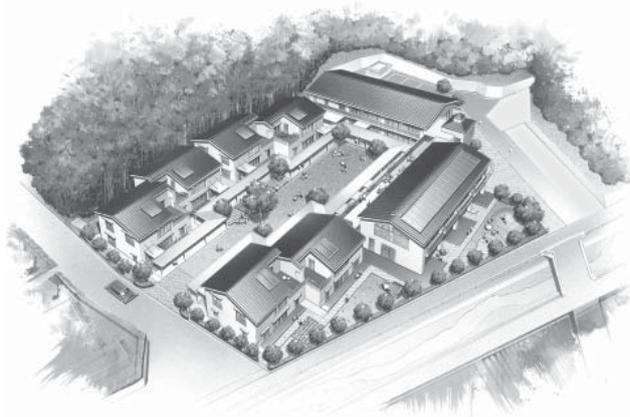
建築設計は、昨年1月から植田理事長、二村施設長を中心に計画段階から協議を重ね、全職員との意見交換会なども行い、計画設計をまとめることができました。工事は、今年1月に既存施設を解体撤去し、3月には新築着工の運びとなりました。

名古屋地域では初めての児童養護施設と乳児院の併設

名古屋市子ども福祉課によると、現在、名古屋市内には、3つの乳児院と14の児童養護施設があり、市内外から640人が入所していますが、近年、子どもたちを巡る状況は、多様化、複雑化しているようです。昔の児童養護施設では、戦災や天災などの理由から「親がいない子ども」が多かったようですが、今は、児童虐待や家族間トラブルなどで親と一緒に暮らせず、つらい思いをする子どもが多いと同法人からお聞きます。

こうした、状況の変化にも対応していくため、同法人では全面建て替えを機に施設での生活環境を大きく変えることとしました。

新しい施設は、乳幼児期から高校卒業まで、一貫して安定した生活環境の中で子どもたちが暮らし、自立するまで生活できる乳児院と児童養護施設を同じ敷地内に併設します。現在、こうした乳児院と児童養護施設の併設は全国的にも例が少なく、名古屋地域では初めての施設です。いままでは乳児院と児童養護施設とは別々の施設でしたが、子どもが乳児院から児童養護に移る際、子どもにとっては、乳児職員へのこれまでの愛着からの別離が悲しく、またここでもつらい思いをするのは子どもたちだったようです。これからは、同じ敷地内で乳児から一貫して生活できるようになりますので、子どもたちの精神的な不安を少しでも和らげることが望まれています。



新築する児童養護施設・乳児院の鳥瞰イメージ図

新築する児童養護施設は、暖かい家庭的な雰囲気をつくり、子どもの個性を伸ばせるように5～6人の子どもが職員と生活する戸建て住宅規模の小舎制とし、2戸建てを3棟建設します。既存施設や従来タイプの施設では、病院や寮と類似した大舎制の施設が多くみられましたが、小舎制にすることで、子どもと職員とが家庭的に毎日生活できるようになります。一般家庭と同じように、朝起きて学校に行き、学校が終わると家に帰っておやつを食べて遊び、宿題をして、御飯を一緒に食べ、夜寝ている間も、ひとつ屋根の下で生活できる環境をつくるのが、この施設整備の考え方の骨格にあります。

乳児院は4つのユニットで構成し、新生児から2歳児まで異なる年齢のグループに分けて生活します。

また、出来る限り早い時期に家庭復帰ができるよう、親子で一緒に生活訓練できる宿舎や自立した子どもが里帰りできる部屋など家庭支援や自立後のアフターケアの施設が予定されています。

そのほか、地域社会の子育て支援を行うため、ショートステイや心理相談のスペースを設けるとともに地域の親子が気軽に遊びに来られるように多目的ホール（地域交流スペース）も設けられます。

新しい施設について

新しい施設では、児童養護施設の定員を従来定員63人を45人に変更、乳児院（新設）定員15人として運営されます。

配置は、緑豊かな中庭を取り囲むように小舎制の児童養護施設、乳児院、管理棟などの独立性の高い施設を雁行配置し、敷地内の景観を特徴づけるとともに各棟を渡り廊下でつなぎ一体感をもたせます。

建築は、戸建て住宅の生活環境とヒューマンスケールを重視し、6棟の小ブロックにより構成しています。全棟は、鉄筋コンクリート地上2階建てとし、建物高さや軒の高さを抑えた低層建築としています。また、あかるく清潔感のある環境の中で子どもたちが快適に暮らせる施設とするため、シンプルな建築デザインで素材感を重視し、手足が触れる部

分は天然木材を使用します。太陽熱エネルギーの利用も積極的に取り入れ、お風呂の湯沸かしや冬季における暖房補助の設備導入を予定しています。

工事期間中、子どもたちは同じ名古屋市緑区内にある民間社宅を借り上げ、引越し生活しています。民間社宅はしばらく使用されていなかったため、壁面や設備が傷んでいましたが、職員や子どもたちが自前でリフォームできる部分は協力し合い、生活ができる施設に改修されました。

3月の地鎮祭には、同法人で生活している子どもたち全員と全職員が出席されました。子どもたちにとっては、自分たちの生活する施設が住宅のように新しく建築されるため、随分と期待されていることと思います。新築工事は、7月末には全棟の基礎工事が完了、11月末には全ての躯体工事が完了し上棟式が予定されています。以後、平成22年2月末に竣工、4月から新しい施設での生活が始まります。

子どもたちが「自分の家」として学校の同級生や近所の友達にも自慢できる施設となるよう、しっかりと工事監理に従事したいと思います。

特殊な性格をもつ施設のため、計画設計では試行錯誤を積み重ね、引き続き現場でも詳細検討を続けています。今後も社会福祉法人中央有鄰学院の新築工事の状況や竣工後のことなど、誌面上にご紹介できることは掲載していきたいと思っています。



地鎮祭での理事長と子どもたちの鉄入れ



ひと・まち・地域

堺市における公共施設の誘導サインのユニバーサル化への試み 大阪事務所／中塚一・西村幸治

堺市におけるユニバーサルデザインってなに？

堺市では、平成18年5月に、障害の有無、年齢、性別、国籍などにかかわらず、誰もがバリアを意識することなく、自由に移動し、活動し、参画し、自己選択・自己決定することができる「ユニバーサルデザインのまちづくり」を推進するにあたり、職員の取組姿勢と推進方策を示した「堺市ユニバーサルデザインガイドライン（以下、堺市UDガイドラインという）」が策定されました。堺市UDガイドラインの特徴は、ユニバーサルデザイン推進の目標「バリアのないまち 自由都市・堺」とともに、職員の基本原則（行動理念）として「おもてなしの心でつくるユニバーサルデザインがいきるまち」とくまずは、職員から変わることが必要と認識され提唱されている点にあります。

アルパックは、堺UDガイドラインの実践として、平成19年度より堺区役所をモデルとして取り組んでいく時点からお手伝いさせていただくこととなりました。

まず私たちが取り組んだテーマは、「堺市におけるユニバーサルデザインってなんだろう？」という命題です。「ユニバーサル」とは辞書によると①一般的であるさま。すべてに共通であるさま。普遍的。②宇宙的なさま。全世界的。とあり、また「ユニバーサルデザイン」とは、ノースカロライナ州立大学のユニバーサルデザインセンター所長であったロナルド・メイスが1985年にユニバーサルデザイン7原則として提唱した「できるだけ多くの人が利用可能であるようなデザインにすること」が基本コンセプトである概念です。

しかし、私たちは「せっかく堺市で行うユニバーサルデザインなんだから堺市らしさを共有する概念を持っておこう」と考えました。

ユニバーサルデザインは利休の教えにあった

そこで、話し合い、発見し、共有したのが、以下の「利休七則」です。

要は、「あるものをあるがままに」デザインするということなのですが、実はこれが一番難しいのを私たちは後々、実感していくこととなりました。

堺区役所をモデルとする取組

まずは、市の担当者の方々と私たちが行ったのは、①庁内ワーキングによる意見交換の実施と、②利用者調査の実施です。

次ページのフローに基づき、現状評価（Check）、改善計画（Plan）、改善実施（Action）によるスパイラルアップを目指しました。

まずは、利用者に聞こう

利用者調査についても、現状把握段階で行った利用者調査①（視覚情報サインの現状調査、視覚障害者（全盲）を対象とした現状調査、外国語表記に関するヒアリング調査）、対応策を検証する利用者調査②（原寸大模型による現地での確認）、効果検討を行う利用者調査③（設置したサイン等を利用者の視点で再確認）の3段階で行っています。特に、利用者調査①で議論になったのが、利用動線や誘導サインのわかりやすさ等と共に、誘導ブロックと触知図のあり方です。

利用動線や案内表示がわかりにくい

利用者の迷いのポイントが「案内サインの確認時」「エレベーターに乗る時」「職員からの回答時」に多くみられ、また案内表示については「離れたところから発見できないサイン」にその原因がありました。

- 一. 茶は服のよきように点て
- 二. 炭は湯の沸くように置き
- 三. 花は野にあるように
- 四. 夏は涼しく冬暖かに
- 五. 刻限は早めに
- 六. 降らずとも傘の用意
- 七. 相客に心せよ



千利休（堺市HPより）



視覚障害者（全盲）を対象とした現状調査



案内所での人的対応を重視



モックアップでの現地確認

I 検討組織設置	1. 庁内ワーキング設置 (メンバー) 企画部、庁舎管理課、建築監理課、 環境経済企画総務課、文化課 等	
II 現状把握	1. 現状の案内の状況確認 ・利用者調査による現状調査 ・ヒアリング調査 2. 課題の抽出 3. 課題の明確化	利用者調査 1 ○現状把握 ・サイン ・視覚障害者対応 ・外国人表記
III 事例調査	1. 先進事例の視察 (障害者施設) ビッグ・アイ (官公庁) 神戸市長田区役所、丁代田区役所 等 (その他) 民間病院 等	
IV 基本方針策定	1. 基本方針の策定 ・案内サイン、表記の方針策定 ・誘導ブロック、触地図等の方針策定 2. サインデザイン確定 ・サイン製作 ・利用者・職員参加によるプレ検証	利用者調査 2 ○改善案検証 ・モックアップを使った検証
V 設計	1. 実施設計	
VI 施工 VII 検証	1. 課題解決の検証 ・利用者参加による検証 2. 新たな課題の把握	利用者調査 3 ○効果検証 ・改善後の検証

誘導用ブロック等は適切に配置しないと逆にわかりにくい

また視覚障害者（全盲）の方々に対しては、本当に必要な誘導ブロックや触地図等が適切に整備されていないことがわかりました。例えば単独歩行の場合、誘導用ブロックの分岐点は進む方向が判断できないことや逆に単独歩行していない場合は歩行障害になっていること、また初めて利用する場合はそこに触地図があることが判断できないこと、屋外では自動車の雑音で誘導鈴が確認できないこと等が発見されました。

明快な改善検討の方針を定める

そのような現状の課題を踏まえ、以下のように改善検討の方針を定めました。

視覚情報サインについては、①読みやすい、わかりやすい文字の大きさ、色彩、設置高さとする、②業務内容から案内誘導する案内サインを設置する、③エレベーターやトイレ等の共用施設のサインは存在をアピールできるものとする。

視覚障害者（全盲）対応としては、①人的案内誘導を重視し、誘導用ブロックは案内所までとする（逆にそれ以降の誘導ブロックは出来るだけ整理しました）、②触知案内図は人的対応を行う案内所に近接して設置する、③フロアマネージャー等の人的体制を整える、とし人的対応を重視しました。

外国語表記についても、①利用頻度の高い業務内容は外国語表記をわかりやすくする、②ピクトサインを効果的に活用する、③多言語表記を行うことで逆にわかりにくいサインとならないようにするとし、要はなんでも6カ国語表記をしないことを基本方針としています。またそれを補完するために、業務案内やフロアマップを掲載した6カ国語のパンフレットを案内所に装備しました。

モックアップによる現地確認

以上のような基本方針に基づき設計を行い、デザインが固まってきた中間段階で、原寸大模型（モックアップ）で、文字の視認性やみやすさ、わかりやすさを利用者の方々にチェックしていただきました。

視覚情報サイン、誘導ブロックの改善

このようなデザインプロセスを踏まえ、実施設計、施工へと展開してきました。

出来上がった視覚誘導サインについては、現在のところ「わかりやすい、見やすい」との評価を頂いていると聞いております。しかし一方では、「サインが多すぎるのでは」「建築空間でサインが目立ちすぎているのでは」との意見もあります。私たちはさらに「利休七則」の教えにそって、今後もわかりやすく、且つ過度に目立たない、その場を活かし「あるものをあるがままに」を基本にデザインしていきたいと考えております。

UD化に向けた総点検マニュアルの作成

また、市有また市管理の施設は数多くあるので、全ての施設で今回のような詳細なプロセスでの改善計画に取り組むことが予算や時間的に困難であると考えました。そのため、施設管理者が主体的に点検し、改善計画を立てていけるようにするために「市関連施設の案内誘導に関するユニバーサルデザイン化総点検マニュアル」を策定しています。

他の区役所への展開

平成20年度には、他の5つの区役所でマニュアルを活用して、区役所職員の方が自ら改善計画を策定し、実際にUD化を実施されました。さらに今年度は、現在建て替えられている美原区役所において、UD化の支援をさせていただいております。



尾張名古屋城下町の風景を訪ねて～尾張名所図絵の今昔を巡る①

名古屋事務所／尾関利勝

築城に始まる城下町名古屋

名古屋の街は今から約400年遡る1610年に誕生しました。日本の多くの城下町都市と同じ頃で、近世の新都市です。

関ヶ原の戦勝によって、天下を治め、江戸と京の間に位置するこの地を重視した徳川家康の命により、それまでの尾張の中心だった清洲を熱田に続く台地の那古野（当時なごやと読んだ）に移転させ、幕府直轄に次ぐ尾張徳川家管轄の城下町としました。

このことから名古屋の街の誕生を、地元では清洲越しと言います。

この時、創建された名古屋城は、西国に対して徳川の威信を示すように、天主には金の鯨を頂き、徳川を思想を示す武家書院建築の源流となる本丸御殿を造りました。

戦災による市街地の焼失

明治以後、木曾三川の水利と濃尾平野の生産力を背景に、国内の中央に位置する地理的条件から、港湾を持つ独自の近代工業都市としてめざましい発展を遂げ

た名古屋は、奇しくもその工業・軍事生産力が徒となり、第二次世界大戦末期には、市街地の大半が連合軍の空襲によって焼き尽くされ、象徴となる名古屋城も灰燼に帰してしまいました。

戦災復興都市名古屋

第二次世界大戦後、戦前の防空都市計画を下敷きにして、復興土地区画整理事業に着手した名古屋は、城下町の社寺の墓地を東に集団移転して平和公園を建設、その残地を種地に旧市街地の区画整理を進め、城下町の碁盤割を活かした街路配置、高規格国道、久屋大通、若宮大通の百メートル道路、大規模緑地・公園を配置して、日本の都市計画の優等生と言われる都市整備を進めました。

歴史の再生

戦災復興が進められる中で、昭和34年（1959）、名古屋城の天守閣が市民の寄付をベースにして鉄筋コンクリートで再建されます。この時から名古屋城全体の再生は当時の市民の悲願として、今日まで語りながれて来るのです。平成20年（2008）9月、築城四百年を間近にして、本丸御殿復元が着手されました。

戦災で旧市街地の大半を焼失したとは言え、焼け残った街並み、社寺、近代建築がまだ多数ありました。これらは市の景観基本計画にその保存活用が位置づけられましたが、社会の変化、都市の成長の中で、次第に姿を消していく状況に有ります。

尾張名所図絵の今昔巡り

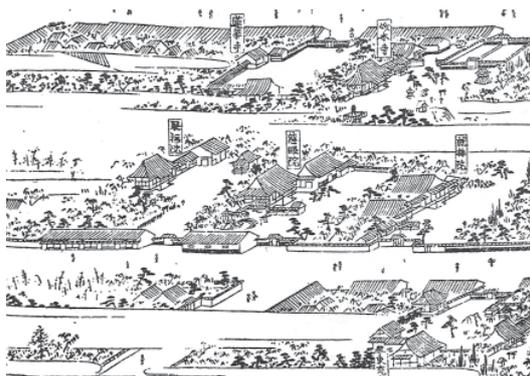
名古屋には江戸時代の観光ガイド「尾張名所図絵」があり、仕事でも歴史検証に使っています。

この今昔を調べようと昨年秋からボランティア研究講座「手の知」（市民グループ白壁アカデミアの自主講座）で、月1回、古地図と今の地図を片手に街巡りを始めました。

戦災都市に遺る尾張の風景

街巡りは歴史と併せて、古いモノと見所を発掘し、新しい名古屋のまちなか観光コンテンツを創る意図を持っています。やってみて、目から鱗が取れるように、街に遺る明治以前の建築、街区の景観を多数発見出来たのです。この講座は何時終わるか分かりませんが、最終的には本にして広く公開する予定です。

以下は、尾張名所図絵と現状の一例です（次回へ続く）。



尾張名所図絵の抜粋



尾張名所図絵に描かれた東の寺町 東充寺（へちま薬師）

嵯峨野線から消えゆくカボチャ電車～チョットとマニアック電車の話！？

京都事務所／山崎裕行

話の舞台

さて、今回は嵯峨野線のお話です。みなさん、嵯峨野線と聞いて、お分かりになるでしょうか。簡単に説明しますと、嵯峨野線は、山陰本線（京都駅～幡生駅間、全長673.8km）の一部、京都駅～園部駅までの区間の呼称で、普通電車で大体1時間程度の路線です。現在、複線化が進んでおり、今後、ますます利便性が高まる路線といえます。

カボチャ電車って何？

この嵯峨野線、つい最近まで、通称「カボチャ電車」と呼ばれる車両が多く見られる路線でした。カボチャ電車と聞くと、なんだかメルヘンチックな響きですね。確かに、先頭の丸いライトは、可愛らしいでしょ。

この車両の正体は、皆さんも必ずどこかで見たことのある113系と呼ばれる直流近郊型電車で、車体が緑、オレンジ、緑という具合に塗り分けられているものを言います。このカラー、湘南色と呼ばれており、非常にメジャーなカラーリングです。ちなみに、



カボチャ電車こと113系



※1：221系は、主に米原～姫路間（高槻から快速）を走り、その他にも大和路快速（大阪～奈良方面）、みやこ路快速（京都～奈良）などで使われている車両です。

嵯峨野山陰線では、違うカラーリングのものも見ることができて、ベージュ、茶、青（窓下のちょっとだけ）、ベージュという色もあります。この組み合わせは、「カプチーノ」や「カフェオレ」と呼ばれているみたいで（私も初耳でした）、湘南色の車両とこの色の車両とが混ざった電車も走っています。

この113系ですが、どうも最近少なくなってきています。代わりに、221系※1が増え、なんと223系※2も見られるようになったのです。一般の方から見ると「だから何なのだ！！」ということかもしれませんが、テツちゃん、少なくとも私にとっては非常に大きな出来事なのです！！

「この路線にも、ついに世代交代の時期が来たのか、また一つの時代が終わるな・・・」と。

どこへ行ったカボチャ電車

さて、気になるのがその行方。

実はこの電車、誕生したのが1963年（昭和38年）で、以来、全国各地で走っているわけですが、古い車両ですともう40年以上経過しています。近畿圏を走っている車両については、1970年代のものが多くいます。



※2：223系は、主に敦賀～姫路、播州赤穂方面を走る新快速として使われている車両です。

が、それでも30年以上経過しています。そのため、廃車となっているものもあるようです。ただ、色々な工事をして、耐用年数を延ばして、他の路線、広島の方や湖西線、草津線で活躍しているものもあるようです。この他に国鉄時代の車両は、全国各地で徐々に姿を消しています。その行方を調べてみるのも楽しめそうです。ひよっとすると、思い出深いあの電車を海外で見かけるということもあるかもしれません。

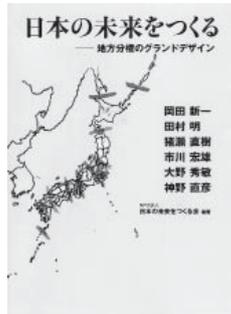
終わりに

さて、154号に引き続きテツちゃんの習性についてご紹介しました。テツちゃんの中には、廃車する車両を追いかける方もいらっしゃるようです。

鉄道のよいところは、その楽しみ方（捉え方）がほぼ無限に広がっている点にあります。飽きることがない。そういう意味では、まちの捉え方というのも無限大ですね。歴史や文化、産業、観光、景観、環境などなど実に多様な視点でまちは捉えることができます。テツちゃん目線を活かして、色々な地域の良い所を引き上げるお手伝いが出来ればと思います。

MEDIA WATCH

「日本の未来をつくる」
—地方分権のグランドデザイン
編著／NPO 法人日本の未来をつくる会
発行／文芸春秋企画出版部
2009年5月



何が起ころうとも不思議でない時代相です。分権を巡る様々な波が一つのうねりになるようですと、このような方向が動きだすかもしれません。

基礎は市民自治

本書の提案の主題は「完全自治州制」です。従来の「道州制」とは趣が違ってきます。

市民の自治政府機能の基礎は「基礎自治体」にありとはっきりと規定しています。

国の主権者は市民（ただの住民ではない）であるということまでは普遍的原理。それぞれお国の事情があって、まだグローバル・スタンダードにまでには至っていませんが、地方自治は市民の生活に身近な地方公共団体に基礎を置くべきであるとする考えは世界的潮流になってきています。

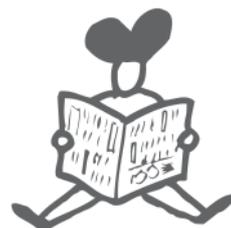
「ヨーロッパ地方自治憲章」がEU評議会で採択されたのは1985年10月。「世界地方自治憲章」第2次草案が国連総会に提出されたのは2001年6月。権限の配分は地方自治体が優先されるべきこと、その事務に見合った財源を確保することが基本になっています。我が国の全国知事会・市長会・町村会と各議会議長会が、積極的に取り組むよう国に「意見」を出しています。アメリカと中国の反対で採択に至らず草案のままですが、この理念は広く深く浸透しています。

原理は従来の統治概念を、上下ひっくり返して、地方自治体が基礎で、そこでできないことはその連合体に、そこでも馴染まないことは中央が補完する所謂「補完性原理 Subsidiarity」です。

原理は展開する

自治の基礎は「自治生活圏」にありと私どもが構想し、追及してきた原理と軌を一にします。関西グループの「21世紀の設計」が本になったのは1972年2月、議論をはじめたのはアルパック創業の2年前、1965年の春で「自治生活圏構想」はこの時に生まれています。

その後、東アジアの文化の底流に共通する思想を取り入れ、京都市主催の国際コンペ「世界からの提案・京都の未来」に「自治生活環境圏都市・



提起者／取締役相談役 三輪泰司

京都」として出しました。1997年でした。

40余年、総合計画、都市マスタープラン、行政区計画から、市街地、住宅地、公共交通等々の計画論のバックボーンであり、検証でもありました。

自治生活圏の政府を置く「核市」は10万～30万としましたが、中核市や行政区の計画で検証し、公共交通はIT技術を駆使して交通連合で担うべきではないかといった具合に。

人間活動が宇宙空間まで広がっている時代、電波通信やエネルギー（宇宙太陽光発電）などは、技術開発の前に、国際機関が管理と徴税の権源を“補完”をしておくべきでしょう。

マスタープランは明快に

もう一つ、この提案に感心したこと。“州”すべて日本海から太平洋へ輪切りであること。

「日本列島は長手方向に、その方向だけで理解してきた。それは“物”で見るいわば「生産軸」。それと直角に“人”の「文化軸」がある。近畿では若狭から紀南まで、更に海を経て大陸へ、南方へ繋がる。東大寺の修二会は若狭井の水を取る。鳥羽法皇が在位中に熊野へ22回も行幸したのはなぜか。紀伊山地にはサルやイノシシしかいないと思っているのか。両軸の交点に都市と文化が栄えるのはわけがある」

これは河野卓男さんの“理論”です。パワーポイントなどない時代でしたから、OHPにして1979年2月、第17回関西財界セミナーでプレゼンテーションしました。財界の学研都市推進への合意を得ました。当時、河野さんは京都経済同友会代表幹事でした。どうも“専門家”は思い込みで国土計画まで建ててしまいます。素人感覚の方がまっとうです。

2004年7月「紀伊山地の霊場と参詣道」は世界遺産に登録されました。海や尾根道は人間の生活行動を繋いできました。関東にも東北にも人間の文化軸があるはず。これこそ明快な真理でしょう。

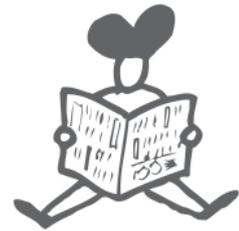
MEDIA WATCH

映画

「真夏の夜の夢
さんかく山のマジルー」
監督／中江裕司



(C)2009「真夏の夜の夢」パートナーズ



紹介者／大阪事務所 鮎子田稔理

メディアウォッチは自分の観たもの、読んだもの、聴いたものを紹介していくコーナーですが、今回は「まだ観ぬもの」を紹介してまいります。

アルパック 40周年で講演いただいた中江裕司監督の最新作のこの映画は昨年夏に沖縄の伊是名島という小さな島で1ヶ月余りに渡りロケを敢行しておりました。

物見遊山で出かけた私も人数が足りないということで、少しだけエキストラとして参加して参りました。

原作はウィリアム・シェークスピア 真夏の夜の夢。舞台を沖縄の小さな島に、妖精をキジムンに置き換えて人と妖精の織り成す幸せに満ちた物語です。

沖縄ではキジムン（木の精霊）の存在は身近なものとして捉えられていましたが、近年の時代の移り変わりと共にキジムンも人々の心から忘れ去られようとしています。

キジムンは人から忘れ去られると、消えてしまう運命にあるのです。この物語を通して、失われつつ沖縄の伝統や文化に再び息を吹き込み、次代につなげていきたいという思いが込められているのだらうと思います。

ヒロインには2007年NHK大河ドラマ「風林火山」のヒロイン由布姫役で鮮烈なデビューを飾った柴本幸、ハンパーキジムンマジルーには



2004年公開された中江監督の映画「ホテルハイビスカス」の美恵子役で存在感を残した蔵下穂波が、美恵子からマジルーへの変身をとげています。その他中江映画に欠かせない平良とみ・進夫妻など楽しく幸せな配役です。

映画の中では、劇中沖縄芝居を楽しむこともできます。沖縄芝居も沖縄の伝統芸能として、長く県民に親しまれていますが、近年はテレビなどの他メディアに押されがちです。キジムンと同じく廃れようとする文化や芸能を残していきたいという思いがここでも伝わってきます。

この映画の題名は「真夏の夜の夢」ですが、沖縄版では「さんかく山のマジルー」という題名になっています。これは沖縄の地域性を考慮し、地元の人々に「これは自分たちの映画だ」という認識を持ち、自分たちの文化や伝統に愛着と誇りを持ってもらいたいという思いからです。

チラシも沖縄版と全国版では違うものになっています。

映画は今回もウチナーグチ全開で慣れないヤマトンチュにはわかりにくいかもしれませんが日本語字幕付きの上映ですので安心してご覧ください。

映画公開に先立ち、中江監督書き下ろしの小説「さんかく山のマジルー」が発売中です。映画の登場人物ハンパーキジムンマジルーと人間が数百年の時を超えて織りなす奇想天外物語です。

映画に登場する前のマジルーの生い立ちや背景が描かれていますので、是非映画を観る前にお読みください。荒井良二さんのイラストと絶妙にマッチしたちょっぴり泣けるファンタジックなお話しです。

7月18日沖縄 桜坂劇場での公開を皮切りに7月後半から随時全国公開

上映情報は「真夏の夜の夢」公式HPでご確認ください。

真夏の夜の夢 公式HP

<http://www.natsu-yume.com/>

さんかく山のマジルー 公式ブログ

<http://www.sakura-zaka.com/majiru/story.html>



ギネス シャムロック
世界記録には三つ葉を、
バイブス マボノス
肘張鞆管楽器には音楽の神を。

京都事務所／廣部 出

御所にて、前号（第155号）に書いたアオバスクに出会い、その足で市役所近くのアイリッシュ・パブへ。疲れた脚を休め、ナイスな料理とギネスなスタウトでリラックス。アイリッシュ・パブが世界的に流行し、京都にも同様のパブは何軒かありますが、ここは“京都初”の“本格派”とのこと。実は、以前ご紹介した「富士ラビット」（第152号）でお会いした松阪健さんの演奏を聴きに入りました。

楽器はフクザツです。

松阪さんの楽器はイーリアン・パイプス。いわゆるバグパイプの一種です。記述を試みましょう。まず、右脇にフィゴ（ベローズ）、左脇に空気枕（バッグ）を挟みます。「イーリアン」とは「肘」という意味で、この両肘を張った格好が楽器名の由来。そして、吹き口のない縦笛（チャントー）を両手に持ち、ドローン管3本とレギュレーター3本の束を右膝に抱えて、これらを枕に接続します。そう、フィゴで枕に空気を溜め、それをぐーっと締めて空気を安定供給しながら演奏するわけです。チャントーは縦笛同様ですが、指先ではなく中節で指穴を押さえるので、演奏中の手指はひらひら。筒底の穴も指穴に相当し、右の太ももに巻いた皮に当てて開閉します。ドローン管はそれぞれが単音でブォー



イーリアン・パイプス

っと唸り、レギュレーターは右手で弾いたりチャントーの相手をしつつ手首でコードを鳴らしたり……。なんだかよくわかりませんね。

演奏者は超人です。

楽器がこんなですから、自在に弾きこなす松阪さんもフツージャありません。「1週間で大概の楽器は演奏できる」なんて。そして、「ドコを押してどの音が出るのかわからん」とノタまいながら、ヤフオク入手のイングリッシュ・コンサーチナ（≒ボタン式のミニ・アコーディオン）を巧みに操り、ギリシア伝来のブズーキ（≒2倍サイズのマンドリン）をかき鳴らし、バウロンを弾いて、と、トッカエ・ヒッカエ。あ、何気なくバウロンを“弾く”としましたが、これは太鼓です。果たして世に“饒舌”と知られる太鼓とは？本稿における記述困難の2例目。もう無理はしません。

街角の近隣社交が大事です。

さて、天才パイパーとそのお仲間たちの演奏は、是非ナマでご堪能頂きたいわけですが、ご存知の通り、パブはアイルランドやイギリスで興り、小地域ごとの街角にあって、現在なお、近隣の生活の中心・交流の場として重要な役割を担っています。小地域の「文化」や「人のつながり」を丸ごと次世代へと引き継いでいく装置が“街角にあり続ける”っていいですね。こんな、多世代が集える“身近さ”と“親しい陽気さ”は、江戸期の二階風呂なんかにあったのでしょうか。

- イーリアンパイパーのアイリッシュな毎日
(<http://blog.szbe.net/>)
- S.Z.B.E Whistle Japan (<http://szbe.net/>)
- The Hill of Tara (<http://www.thehilloftara.com/>)

松阪健さんプロフィール：日本でプロのイーリアン・パイプス奏者はほんの数人。松阪さんはそのうちの一人の名パイパーであるだけでなく、日本初のイーリアン・パイプス制作者（メーカー）です。

アルパック(株)地域計画建築研究所

<http://www.arpak.co.jp> E-mail info@arpak.co.jp

本 社

京都事務所 〒 600-8007 京都市下京区四条通り高倉西入立売西町 82	TEL(075)221-5132 FAX(075)256-1764
大阪事務所 〒 540-0001 大阪市中央区城見 1-4-70 住友生命 OBP プラザビル 15F	TEL(06)6942-5732 FAX(06)6941-7478
名古屋事務所 〒 460-0003 名古屋市中区錦 1-19-24 名古屋第一ビル 6F	TEL(052)202-1411 FAX(052)220-3760
東京事務所 〒 160-0001 東京都新宿区片町 1-20 萩原ビル 3F	TEL(03)3226-9133 FAX(03)3226-9560
九州事務所 (株)よかネット 〒 810-0802 福岡市博多区中洲中島町 3-8 福岡パールビル 8F	TEL(092)283-2121 FAX(092)283-2128